

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第71号 (H29.6.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 6月も半ばを過ぎました。今年の宮崎は、梅雨入り後も雨が少なく湿度も上がり過ぎやすい天候が続いています。ただ、沖縄県では前線が停滞し大雨となっているようですね。梅雨の後半の土砂降りに注意が必要です。

今回も、現地から山元香代子先生の報告と、巡回診療に同行した医学生さんからの報告等をお伝えします。

賛助会費納入及びご寄附のお願い

・認定NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業は、皆様からの賛助会費並びにご寄附により運営されています。事業年度は毎年1月から12月です。賛助会費は個人一口5000円、団体一口10000円からとなっております。ご寄附につきましては金額を問いません。

・郵便局まで足を運んでいただくというお手間をおかけしますが、ご協力のほどなにとぞよろしくお願い致します。

・WEB口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。

・入金を確認しました際には、日高から御礼のメールを差し上げます。また当法人は認定NPO法人であり、ご寄付(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。九州地方は梅雨にはいったと聞きました。雨の多い毎日が続いているのでしょうか。

こちらは、いいお天気が続いています。朝晩、寒くて重ね着をしています。乾燥してきているので、未舗装の道路を走ると埃がすごく、対向車が全く見えません。運転手には十分に注意するように口を酸っぱく言っています。

5月10日はルアノでの巡回診療。患者数は82名と少なく、マラリア陽性は80名中27名(34%)。昨年の今頃は35名(45%)でしたので減少しています。マラリア蚊の殺虫剤噴霧の効果なのか、天候の影響なのかははっきりしません。三重大の医学生1人が同行しました。ルアノの往復で、あちこちの道端に20名近くの患者が待ちかまえていました。マラリア陽性はごくわずかで、チペン



道路端でのマラリア検査の様子

ピヘルスセンターに行くように説明しましたが、どれだけわかってもらえたのか疑問です。

5月17日はニャンカンガでの巡回診療でした。114名の患者を診察し、マラリア陽性は112名中27名(24%)。昨年の同時期の92名(60%)と比べて大きく減少していて、ニャンカンガでは噴霧活動をしていないので、やはり雨が多かった影響かなと思います。ブラックマンバ(コブラ科の毒蛇)が、クリニックの近くで出たが殺すことはできなかつたと聞いて、せっかく近くにできたトイレを使うのも怖くてたまりませんでした。三重大の医学生1人が同行しました。



診療の様子

5月24日はルアノでの巡回診療。患者数は68名と少なく、マラリア陽性は59名中23名(39%)。昨年の今頃は34名(44%)でした。三重大医学生4人が同行して、仕事を手伝っていただきました。ありがとうございました。2か月の乳児が重症肺炎で、抗生剤の筋注後、プロジェクトの車でチペンビヘルスセンターに送りました。その後郡病院に送られましたが、元気になりました。学生さんには車の中が窮屈で申し訳なかったです。

6月7日はサンダラでの巡回診療。今回は行き帰りとも車のトラブルがなくほっとしました。患者数は123名。マラリア陽性は121名中67名(55%)と多く、ルアノとの境界に接するルアノ郡などの他の郡の患者にマラリアが多くみられました。血性の嘔吐、血便に強い貧血の患者が牛車で運ばれてきて、血圧もやや低め、とにかく点滴をして脱水を少しでも補正し、ヘルスセンターに連れて行くことにしました。19時前に診療が終わり、1台の車の後ろの荷台を空っぽにしてタオルなどを敷き、そこに横になってもらいました。ルアノのいつも診療を行うクリニックでは下肢の蜂窩織炎の子供が待っていて、ヘルスセンターに連れて行きました。またコミュニティヘルスワーカーの奥さんが流産したらしくヘルスセンターに連れて行くことになっていました。ヘルスセンターなどに搬送する時は必ず家族がいっしょです。蜂窩織炎の子供の父親が母親と一緒に自分も行くと言ってきかず、車にはスペースがないと説明してもなかなかわかってもらえずたいへんでした。腕の骨折の子供が2人いて、三角巾で固定することしかできず、病院受診を勧めましたが交通手段がない、金がないと。1人にはわずかなお金を渡し、もう1人はヤギを売って金をつくれるとのこと。できるだけ早く受診するように説明しました。今回は、ヘルスセンターからのスタッフが同行して予防接種を実施しました。ルアノに向かう途中で、10名以上の患者が待ちかまえていました。このうちマラリア陽性は2名だけでした。再度、ヘルスセンターに行つてほしいと説明しましたが、3時間も歩かなくては行けないと主張され、こままってしまいました。



サンダラ地区の診療場所の様子

ルアノのマインガ地区のみ連絡が届いておらず、噴霧が実施できませんでしたので、5月15日にマインガや道路状況が悪く行くことのできなかったサンダラの数軒を含め、再度噴霧を実施しました。16家族30戸の噴霧を行いました。車で相当の距離走ったのですが、ルアノの端と端で、あまり効率の良い噴霧ではありませんでした。5月19日はニャンカンガではじめての噴霧でした。35家族73戸の噴霧を実施しましたが、家が比較的かたまっているのととても順調に実施できました。自分の家の敷地内にポンプのついた井戸を持っている人がいたり、10m以上手掘りできれいな水を確保している人がいたりと驚くことが多かったです。家そのものもトタンで葺いている家が多くみられ、ルアノの藁葺きの家と比べ、生活が豊かな印象を受けました。噴霧終了後、コミュニティヘルスワーカーのモゼスさんの家でシマをいただきました。おかずのオクラがとてもおいしかったです。

5月26日からはコミュニティヘルスワーカーの研修が始まりました。30日間の研修なのですが、今回は20日分、サンダラから4名、ルアノから3名、ニャンカンガから3名の参加者に、ムレタさん、シバンダさんにルサカの新人看護師のデリックさんに講師をお願いしました。農業大学の宿舎を借りるはずのところ学生が使用しているため使えず、困っていたところ、ゲストハウスを持っているオメガ夫人の好意で1ベッド250クワチャを100クワチャ（約1200円）で使わせてもらうことができました。ルサカのゲストハウスなどよりとてもきれいで、設備もあまりにも整っているの、盗難などの不祥事が起きなければと心配しましたが、大丈夫なようです。人を信用しないのかと思われるかもしれませんが、ムレタさんのヘルスポストも、ルアノのヘルスポストも薬などの盗難にあっていますし、噴霧時に手袋が無くなったりと、泥棒や盗難は日常茶飯事ですので、気をつける以外にないのです。食事の準備は近くで食堂をやっているカバンガさんに、1皿15クワチャ（約180円）でお願いしました。朝食のパンと卵はルサカから3-4日おきに届けています。研修の参加者は英語の読み書きができることが条件になります。マニュアルが英語なのです。マニュアルの英語がむずかしい所はわかりやすく説明したりと工夫していますが、参加者はとても優秀で順調に進んでいます。水曜日は巡回診療に出ますので、その時はデリックさんに一人でがんばってもらいます。



研修会の様子

報告書がすっかり遅れてしまいました。申し訳ありません。みんなががんばって仕事をしています。これからもみなさまからのご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

巡回診療に同行して(三重大学医学生さんからの報告です)

5月23、24日の二日間、山元先生の活動に参加させていただいた。23日は24日のための荷物の準備を行った。コンテナに必要な薬や器具を詰め込む作業と、不足している物品の買い出しに同行した。24日は早朝からルサカを出発し、ルアノという地区でのモバイルクリニックに同行させていただいた。最初マラリアの検査をさせていただき、そのあと予診を取らせていただいた。

マラリアの検査は比較的簡単な検査であるが、日本ではめったに行われないものだ。しかしザンビアでは、これにより多くの人を救われている。国や地域が異なれば医療の形も当然変わってくる。疾患が違うだけでなく使える資源や人材も異なるため、需要と供給のバランスが非常に大事だ。山元先生は限られた資源でなるべく多くの患者を救おうと努力しておられた。資金の管理やスタッフの教育、もちろん診察や治療に関しても手を抜くことなく活動されていた。そういった先生の熱意がスタッフの方々にも伝わり、みな誇りを持って活動しているように感じた。

私たちがこれまで大学の実習で見てきたものとは全く異なった医療の姿を目の当たりにしたが、山元先生が大切にしておられる考え方はこれからどこで働くにしても大切になると思うので、忘れずに心に留めておきたい。

最後に、山元先生はじめ多くのスタッフの方々に感謝を申し上げます。この活動で学び、感じたことを大切に、今後も勉学に励んでいきたいと思ひます。



ルアノ地区の整備された診療場所

私は5月23日、24日に山元先生のルアノ地区へのモバイルクリニックに参加させていただいた。

23日、クリニックの前日準備をお手伝いした。何種類もの薬品や検査キットを詰めていく。すべて援助金や先生自身のポケットマネーで買っており無駄なものは一切ない、というお話を伺って、活動を維持する難しさを感じた。24日、朝早くに出発する。拠点へ向かう道中でも山元先生を待っている方が多くいた。広場に到着し診療を開始すると、あっという間に待っていた人々が長い列を作る。診療は約4時間に及んだが、倍以上時間がかかる方が多いとのこと。長時間かけ、機材が豊富とは言えない状況でハードな診療を何年間と行っている山元先生に、素晴らしいエネルギーと情熱を感じた。スタッフの方々も素晴らしい仕事をしており、各々が自分の仕事に誇りを持って取り組んでいるのが伝わってきた。



最後になりましたが山元先生をはじめとするスタッフの皆様、この度の見学、実習では大変お世話になりました。ここでしかできない経験ができ、一生の宝物になりました。本当にありがとうございました。

三重大学医学部医学科6年 前田和輝

ザンビア情報（在ザンビア日本大使館 HP からの転載情報）

◎ザンビアの経済概況（2017年5月）

主要な経済ニュース（5月）

1. “FQM, 2017年第1四半期に13万2,000トンの銅を産出” (Daily Nation, 1日)

ファースト・カンタム・ミネラルズ (FQM) 社は、2017年第1四半期に、2016年同期比11%増の13万2,356トンの銅を産出した旨発表した。同記録は、ソルウェジのカンサンシ鉱山及びセンチネル鉱山の算出増を背景としたもの。一方、Newall FQM 社社長は、センチネル鉱山が完全操業であったこと及び同四半期の中にザンビアが雨季であったことなどの要因によって、銅の生産コストが同四半期中に上昇した旨発言した。

*以前、日本の銅貨にザンビアの銅が使用されているとの紹介がありました

2. “2016年のザンビア GDP が2,168億2,630万クワチャに増加” (Daily Nation, 2日)

カルンビ・ザンビア中央統計局 (CSO) 局長は、月例の記者会見にて、2016年のザンビアのGDP (名目) が、2015年比18.2%増の推計2,168億2,630万クワチャである旨発言した。同局長は、GDPの主要構成比が以下のとおりである旨発言した。

①小売り・卸売業：22.0%、②鉱業・採石業：12.0%、③建設業：10.9%、④教育関連：7.7%。

*およそ1クワチャは11円ですので、約2兆4千億円でしょうか

以上

平成29年も ORMZ へのご支援のほど、どうぞよろしく申し上げます